

| | | | | | | | |
|--|---------|--------|--|-------------|----|-----|----------|
| 科目名 | 子どもの保健Ⅱ | | | | | | |
| 授業形態 | 履修形態 | 単位数 | 年次 | 開講期 | | | |
| 講義 | 必修 | 2 | 1 | 後期 | | | |
| 担当者名 | 新谷 幸江 | 関連する資格 | 保育士資格 必修 | | | | |
| 授業概要 「子どもの保健Ⅰ」で学んだことを基礎にして、保育現場で出会うことの多い子どもの疾患や事故、子どもの傷害について理解し予防と対策について学び、保育と療育の面から保育者のあり方を学ぶ。子どもの健康保持や増進、発達支援を促すための保育者としての責任や役割を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 1. 子どもによくみられる感染症や疾患、障害を理解し、その予防や対策、適切な対応について理解できる。 2. 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について理解できる。 3. 児童福祉や母子保健など子どもと家族をとりまく法律や政策について理解できる 4. 子どもが健康に成長できる環境について考えることができる。 | | | 成績評価方法 ・定期試験 60% ・プレゼンテーション 20% (グループワーク含む) ・レポート、小テスト 10% ・学問への姿勢 10% | | | | |
| 評価項目 | 評価基準 | | | | | | |
| | 知識理解 | 思考判断 | 関心意欲 | 技能表現 | 態度 | その他 | 評価割合 (%) |
| 定期試験 (中間・期末) | ○ | ○ | ○ | | | | 60 |
| 小テスト、授業内レポート | ○ | ○ | ○ | | | | 10 |
| 宿題、授業外レポート | | | | | | | |
| 授業態度・授業参加度 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| プレゼンテーション | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 20 |
| グループワーク | | | | | | | |
| 演習 | | | | | | | |
| 実習 | | | | | | | |
| 授業計画と概要 | | | | アクティブラーニング | | | |
| 1)子どもの保健Ⅱオリエンテーション | | | | 絵をかく | | | |
| 子どもの特徴と健康障害 | | | | 子どもの特徴を備えた絵 | | | |
| 2) 子どもと感染症について 1 | | | | 小テスト | | | |
| 感染症の分類と感染経路について | | | | | | | |

| | |
|--|-------------------------------|
| 3) 子どもと感染症について 2 感染症第 2 種・第 3 種疾患と出席停止期間について | 小テスト |
| 4) 子どもと感染症について 3 感染予防と対策について | グループワークとプレゼン 「感染予防と対策」学び合い |
| 5) 子どもと主な病気と特徴 1 循環器疾患 | 小テスト |
| 6) 子どもと主な病気と特徴 2 血液系の疾患 | 小テスト |
| 7) 子どもと主な病気と特徴 3 悪性腫瘍 | グループワーク 「発達段階と病気の受け止め」 |
| 8) 子どもと主な病気と特徴 4 神経系疾患 | レポート 「私の家族観」 |
| 9) 子どもと主な病気と特徴 5 泌尿器・生殖器 | 事例検討 「ネフローゼ症候群」 |
| 10) 子どもと主な病気と特徴 6 皮膚疾患 | 事例検討：対応について 「伝染性膿痂疹」とびひ |
| 11) 子どもと主な病気と特徴 7 熱傷 整形外科疾患 | 事例検討 「熱傷」への対応 |
| 12) 子どもと主な病気と特徴 8 内分泌・代謝性 乳幼児突然死症候群 他 | 小テスト |
| 13) 子どもの救急法 講義と事例演習 | 演習例：気道異物除去 止血・一次救命処置 |
| 14) 保育現場における衛生管理 保育現場における事故防止と安全対策 | 発達段階に応じた指導方法 例：絵本・説明の実際 |
| 15) 健康及び安全の実施体制 関係法規 | まとめの意見交換 |
| 授業外学習 | |
| 復習：ノートを整理しながら知識の確認をしてください。 | |
| テキスト、参考書、教材 | 関連する科目 |
| 「子どもの保健Ⅰ」佐藤益子編集（ななみ書房） 「子どもの保健Ⅱ」佐藤益子編集（ななみ書房） | 子どもの保健Ⅰ、子どもの保健Ⅲ、児童福祉 |
| 備考 | |
| | |